

小児肺炎球菌感染症

どんな病気？



肺炎球菌がひきおこす主な感染症は、細菌性髄膜炎、菌血症、肺炎などの重い全身性の感染症や中耳炎、副鼻腔炎などの気道感染症があります。特に、肺炎球菌による子どもの細菌性髄膜炎は、初期症状がかぜに似ているため判別が難しいだけでなく、後遺症を残しやすく、死亡例も多いことが知られています。

ワクチンの接種対象

定期接種としては、13価肺炎球菌結合型ワクチンが使用されています。生後2か月から定期接種として受けることができます。標準的スケジュールは、初回免疫3回、追加免疫1回の計4回ですので、接種もれに注意してください。特に追加接種については、1歳になったら速やかに接種しましょう。